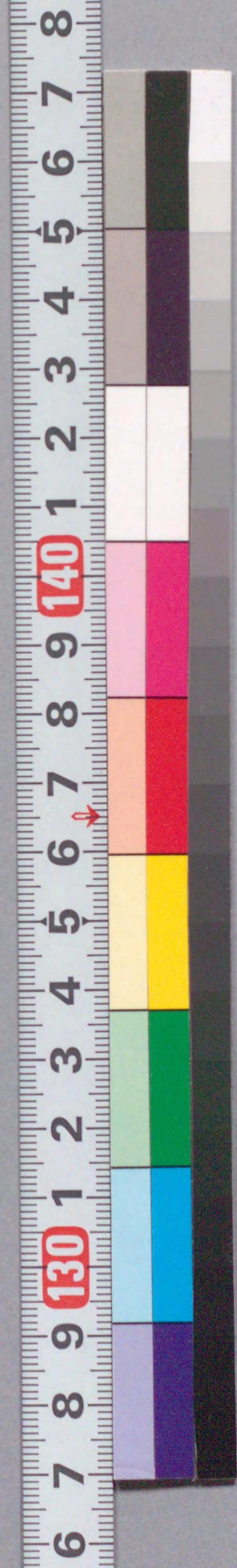


207
129

国立国会図書館 大平記万八講釈 : 3巻 207-129



ガラス使用



太平記萬八講釈

三
人
三
三

207
別
129

大
平
記

国立国会図書館 大平記万八講釈 : 3巻 207-129

ガラス使用

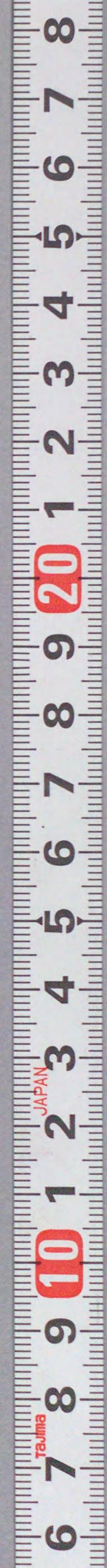
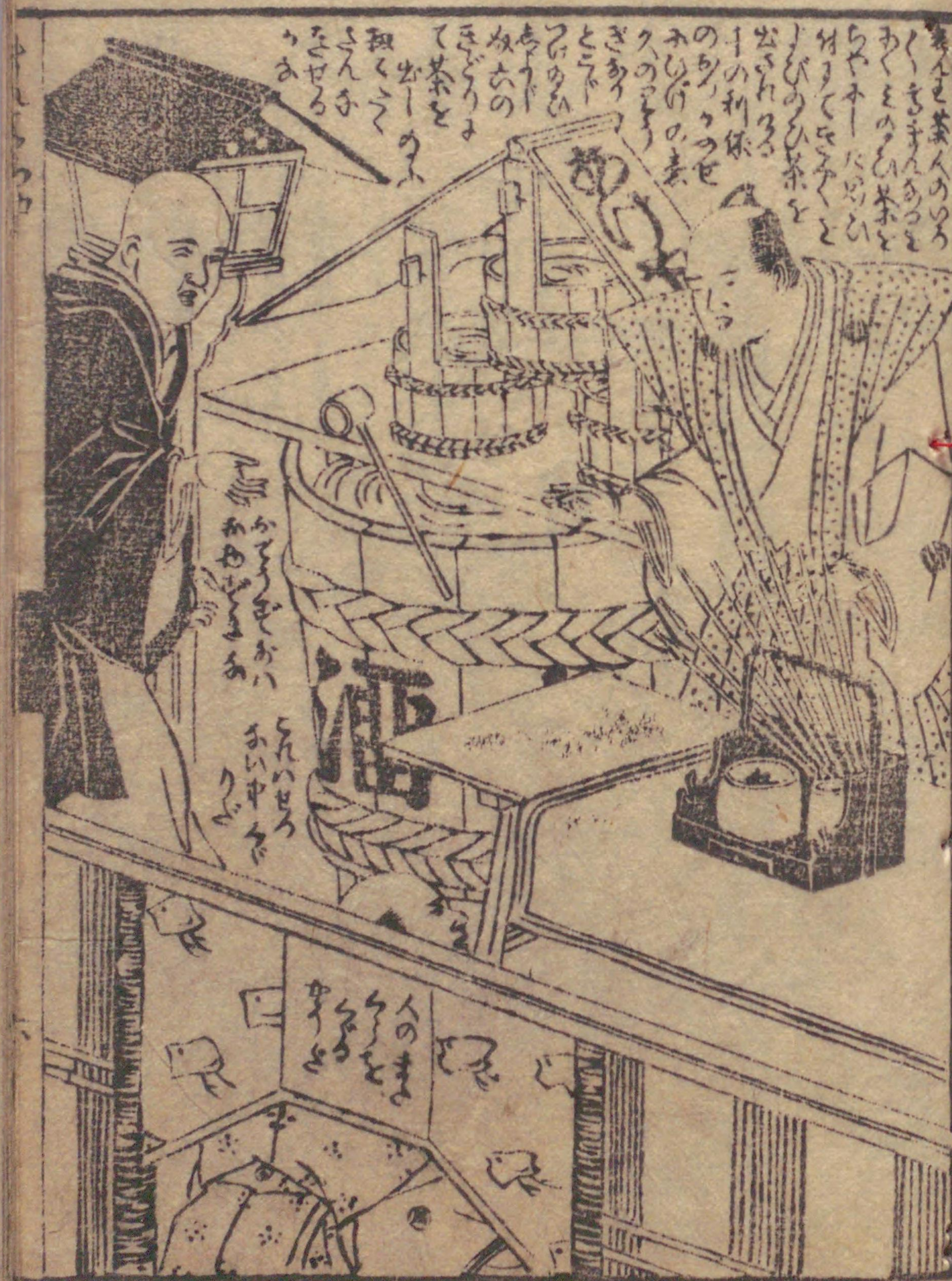


序
金に先生栄花の姿をえりきりしるまのこ
繪双帝ハ大人ハ處ト通とむじと隆小行の
實録世小用いらるる自童蒙を教諭するま
其一端をとりつらるる町ガ羅のこ三川の保ま
めいんすも又堤を切雨をま〜〜漑を測
とあはれの羅んとあはるるれども幸の矢のをや
と〜〜書林ガ責をとせきり〜〜愚ある
をもの思ひ出の世の面の皮厚く千枚張をかき
温萬八樹の脚陀室〜〜画双帝ハ代入
温名義小納ま〜〜脚代をのま〜〜平記
平氣ふ〜〜二作〜〜









道具附

掛物 十寸尺
茶の切 何れも

釜 煮る紙子切替

炭取 ありて

香合 久し見と上

花入 尺八
花とどころ

水指 伊賀平内

茶入 ありて

茶碗 赤澤

茶扱 遠久休

蓋垂 旅友切名

茶茶 ありて

會席

肴の物 君あり

中酒 ありて

吸物 ありて

肴 ありて

菓子 ありて

後 ありて

丸卓 ありて

香煙 ありて

茶をんとしつゝいふ



會席の
中
の
茶
の
味
は
い
ち
ばん
い
い
だ
と
い
ふ
人
も
あ
る
が
...

あれたらうき
せんけといふ
せんいひひと
せん
馬舟のまき
千歳の茶
ふきと十八
茶をんの
あやまらで
ごころ



丸卓 三層
香煙











あま王せんぐみり
 だのいよくとえ
 ぞゆをささき
 なるばらけ中ら
 くおのめい
 借をのめは
 りんをいこ
 せのくしお
 あが川
 りれことさ
 ねえのさ
 さことさ
 フ入て足
 せのくハ
 ちのめ
 うあれ
 じつく
 てろあ
 てあ
 やい
 うちの
 ちのめ
 きこ
 て甘
 てゆ
 ころ



十四

あま王せんぐみり
 だのいよくとえ
 ぞゆをささき
 なるばらけ中ら
 くおのめい
 借をのめは
 りんをいこ
 せのくしお
 あが川
 りれことさ
 ねえのさ
 さことさ
 フ入て足
 せのくハ
 ちのめ
 うあれ
 じつく
 てろあ
 てあ
 やい
 うちの
 ちのめ
 きこ
 て甘
 てゆ
 ころ



か
 れ
 へ
 く





207
129

わつとりのあ
ひんかーちんま
のりのちちふ
いのひ正とら
のまやを初
あんまとあり
のひ天台背
一の名備えて
りちきとら
さくゆまんの
ごとくとら茶
の能うれのや
あ
今取らうかと
くあるとのあ
そあつとらり
うねまかま
れと何とゆふ
うくがよん十
式故ていあめ
うかあまん
あうしれども
うごせりも
あうご



喜三二戲作

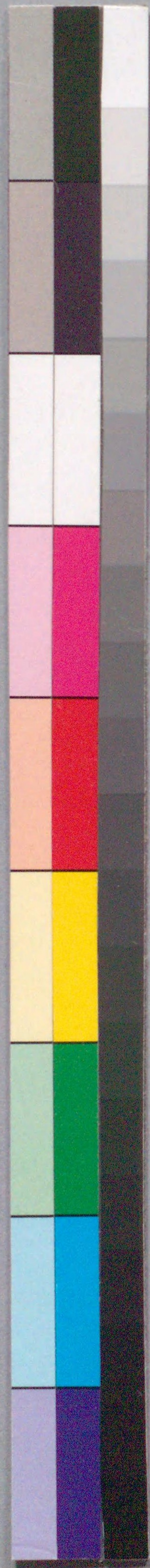
喜三

207
特別
129

国立国会図書館 大平記万八講釈 : 3巻 207-129

ガラス使用





国立国会図書館 大平記万八講釈：3巻 207-129

ガラス使用